

鶯 溪

忍岡高等学校同窓会会報 令和4年5月31日(2022年) No.101

忍岡高等学校同窓会 鶯 溪 会

〒103-0004
中央区東日本橋 2-16-10-504
URL : <http://www.oukeikai.com>
e-mail : oukeikai@ybb.ne.jp
電話・FAX 03-3851-9889

発行 鶯 溪 会

◆香り高い文化の創造◆

令和4年春の忍岡高校

ご卒業、そしてご入学おめでとうございます。
春の忍岡は華やかにスタートしました。

充実した高校生活を

平成18年度に普通科と生活科
学科とを併設する全日制単位制
高校として新体制で出発して16
年を経た令和4年4月7日、新
入生普通科157名、生活科学科56
名、総勢213名を迎え入学式が母
校体育館で挙行されました。今
年も新型コロナウイルス感染症
への対策上、限られた参加者で
の実施となりましたが、鶯溪会



新入学生と父兄、教職員そして最少限の来賓で行われた入学式。
整然と厳かに執り行われました。

巣立つ210名の活躍を祈ります

からは佐々木弘会長が参列しま
した。高校という新しい生活に
夢をふくらませる新1年生、自
分らしく自由に高校生活を謳歌
してください。

入学式に先立つ3月5日に卒
業式が同じく母校体育館で挙行
され、普通科148名、生活科学科62
名が巣立っていきました。新型
コロナウイルスの影響で様々な
イベントや行事が中止になりま
したが、創意工夫で楽しく有意
義な高校生活を過ごしたことに
思います。新しいステージでも
努力を惜しまずまっすぐに生き
てください。健闘と活躍を祈り
ます。

新入生歓迎ライブ

4月22日(金)のお昼休み時
間に吹奏楽部が校庭で新入生歓
迎ライブを行いました。たくさ
んの観客の中、素敵な演奏ライ
ブでした。



一年生にとってはサプライズだった
かも。お兄さんお姉さんたちの粋な
計らいで高校生活がきっと楽しくな
ることでしょう。

蓬萊園と大公孫樹

この春も蓬萊園の大公孫樹は
大きく枝を広げ新しい仲間を迎
えてくれます。止まっていた蓬



春を迎え勢いづく大公孫樹、池を挟んで
正面には鶯溪会が植樹した杏の樹に薄桃
色の花が咲いていました。(3月25日撮影)

菜園の整備第2弾もそろそろ準
備に入りたいと考えています。

定期総会のご案内

令和4年度「104回定期総会」を左記の通り開催いたします。
鶯溪会発展のため会員のみなさま、運営委員(評議員)
のみなさまのご参加をお願い申し上げます。

日時 令和4年6月25日(土)

午後2時10分より

会場 中央区立産業会館

4階集会室

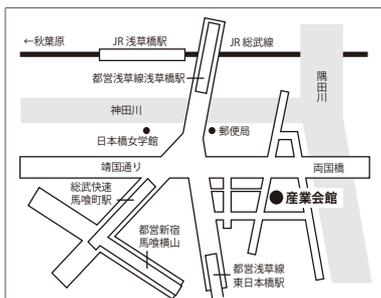
議題

- 一、令和3年度事業報告
及び決算公告
- 一、令和4年度事業計画
及び予算案

★入場数に制限があります。
運営委員以外の参加ご希望の
方はメールにてお申し込みく
ださい。



oukeikai@ybb.ne.jp
鶯溪会
メールアドレス



■交通機関 / 都営浅草線東日本橋駅・都営新宿線馬喰横山
JR 総武快速線馬喰町駅・JR 総武線浅草橋駅

安藤さよ子副校長

着任の挨拶



今年4月都立本所高校より
転任した安藤さよ子副校長

日頃より鶯溪会の皆様におかれましては、本校のさまざまな教育活動にご支援ご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。私は4月に着任いたしました副校長の安藤と申します。微力ではございますが、皆様のお力添えをいただきながらよりよい教育活動を展開してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。

時

時に東京に戻り、卒業後は豊島区立道和中学校の家庭科時間講師として1年間勤務しました。

その後、都立小岩高校の家庭科教員として教員生活をスタートさせ、都立水元高校、千代田区立九段中等教育学校、都立本所高校への異動を経て、本校へ着任致しました。

それぞれの場所で生徒や保護者そして教職員仲間と出会い、教員として育てていただきました。また、充実した教員生活を送ることができました。皆様との出会いも素晴らしいものになるであろうと、楽しみにしています。これまでの経験を活かし、少しでも本校が前進していく力になればと思っております。

さて、昨今の予測困難な社会の中で子どもたちが新しい時代を生き抜く力を育んでいくためには、保護者と教職員そして地域の方々とうかが

りと連携して子どもたちを守っていくことが重要であると感じております。今後ともこの鶯溪会報やホームページ等の機会を通じて共通認識を形成していければと思っております。

コロナ禍における学校生活は3年目を迎え、従来の学校行事を経験したことがない生徒ばかりが在籍している状況です。従来型にこだわらず、新しいものを作り上げる転機ととらえ、子どもたちが主体的に生きていく力を育んでいけるよう、陰ながら成長を見守り、必要な時にはしっかりと支える一助をなしていければと考えております。

鶯溪会の皆様におかれましては、引き続き生徒たちを温かく見守っていただき、学校とともに生徒たちを支えていただければと思います。

最後に、鶯溪会のみならずのご発展を祈念申し上げます。着任の挨拶とさせていただきます。

令和4年5月14日
東京都立忍岡高校
副校長 安藤さよ子

書籍紹介

百歳記
- タケニスズメ
ヤナギニツバメ -
石井希代子著
幻冬舎刊
1,400円

百歳記



父母の想い出で結ばれている。

後半は「百歳記」(人生百年を顧みて)となり、疎開のこと、女学校のこと、旅行記などが語られている。疎開先でつらい思いをしてもしっかりと疎開後の生活資金を作るたくましさ、忍岡高女での授業の驚き、科目毎の先生の指導など鮮明に書かれている。

大正から昭和、戦中戦後と激変する時代をしっかりとした意思を持って生き抜いたひとりの女性のリアルな人生記といえる。

著者は、明治40年東京の商家の次女として誕生。忍岡高等女学校を大正12年3月に11回生として卒業している。その年の9月、関東大震災に遭いその「関東大震災の記」から話が始まる。

内容は二部構成となっていて、前半は「タケニスズメヤナギニツバメ」(子供の見た明治・大正)で、小学生の頃の下谷区二長町の新居のこと、近所の武家屋敷のこと、下町の遊び、影響を受けた小学校教師の姿などが綴られていて、

この書籍は、もともと58期の一本忠之さんから、「知り合った方のお母様が忍岡高女出身で立派な本を書かれています」と一報をいただき、紹介させていただいた次第。ご希望の方には、貸し出ししますのでご連絡ください。1冊しかないのをお待ちいただくこともあります。申込みはメールでお願いします。



oukeikai@ybb.ne.jp
鶯溪会
メールアドレス

支える人々

文化祭で舞台発表のトリを務めるファッションショーを始め、生活科学科でファッションデザインを指導する金沢昭良先生にお話を伺った。

指導をする金沢先生



ファッションショーにチームで挑むことが大事！
他人の価値観を共有することができ、
プロフェッショナルが育つ。



生活科学科の授業「課題研究」「ファッションデザイン1」と「ファッション部」の合同発表としてのファッションショー

2019年から2021年まで忍岡の文化祭で発表した3年分ファッションショーを8分40秒の映像にまとめたものがYouTubeで公開されている。衣装の製作はもちろん、ショーの演出、動画の撮影・編集などすべて生徒が行ったものだ。毎年、このショーの指導に携わっているのが金沢昭良先生である。

ファッションショーは、最大のイベントであり忍の伝統、プロを育てるための基本でもある

「3年前、被服の先生たちと模索してきた結果が今のショーの形となった。もともと忍岡の生徒がショーで発表する作品のクオリティーは高いものがあつたが、あえて自由なデザインではなく課題としてテーマを与えることで、授業の中でデザインの発想方法を学ぶようにしている。」そう語る金沢先生。

「衣装をファッションショーとして第三者に見てもらおうとこのまでが衣装製作であり授業である。そのファッションショーを通し、他人と価値観を共有し、チームとして求められることを考えること、それは職業科としてプロフェッショナルを育てる忍岡高校生にとつてとても大切なことであり、それが他の普通

科の生徒が衣装を作ることの大きな違いである。」と考えているとのことだ。

ファッションショーは被服を学ぶ生徒たちにとつての最大のイベントであるだけでなく、文化祭の舞台発表のトリを務める忍岡の新たな伝統といつていいだろう。

高校時代まで吹奏楽、大学の教職課程でファッションを志す

金沢先生は1977年、福島県会津市のお生まれ。高校時代まで吹奏楽を続け、大学の教職課程で家庭科を学ぶ中でファッションを志すようになったという。自分のイメージしたものを形にすることの面白さ。それが今でも生徒たちと共に歩む原点となっている。友人に頼まれて服を手作りするのが学生時代のアルバイトだった。

忍岡は都立高校として3校目で、今年で5年目になる。ファッション部と吹奏楽部の顧問。忍岡の生徒は他校の生徒と較べ、ファッションや調理など将来の仕事への思いが強いという。

全国産業フェア秋田大会で準優勝を果たす

「特に印象に残っているのが勤務初年度の2017年、全国

産業フェア秋田大会のデザインコンテスト。」とのこと。1チーム3人で作品を製作し発表。課題は「故郷」。忍岡の作品は彼女たちの故郷が東京であることからあえて「故郷」のもつイメージとは正反対の「都会」をイメージしたもので、他県の生徒たちが思い浮かべる「故郷」とは一線を画したデザインとなった。

夏休みも文化祭の準備や進路活動の合間を縫って製作や発表に備えてきた忍岡のチームは見事全国で準優勝を果たした。この時、「自分の被服に対する経験や知識をすべて生徒のために出し切る努力をしよう。」と改めて思ったという。

自分を表現することを学んでほしい

金沢先生が被服の技術習得以上に生徒たちに望むことがある。「それは服づくりを通して自分の考えやイメージを形にすること。その体験を通して自分を表現するということを学んでほしい。そこからさらなる欲求や向上心が生まれる。それは決してアートなどの表現だけでなく、他の分野や人生の局面で生きる力として発揮されるはずだ。」そう語ってくれた。

忍岡高校のホームページを見ると、「学校紹介」の中の「メディア情報」コーナーで、「普通科」「生活科学科」「施設紹介」の自作の映像の他にメディアで紹介された映像へのリンクが貼られていて、全て YouTube で見る事ができる。普段あまり見ることがないサイトですが、ピックアップして紹介したい。



←「忍岡高校」のホームページはQRコード読み込むか「忍岡高校」と検索してアクセスしてください



← QRコードを読み込んでご覧ください。または、YouTubeで「忍岡高校 ファッションショー」で検索

ファッションショー



← QRコードを読み込んでご覧ください。または、YouTubeで「さんだる忍岡高校」で検索

「さんだるさん」



← QRコードを読み込んでご覧ください。または、YouTubeで「都立専門高校家庭」で検索

都立専門高校家庭

い・ま・し・の

現在の忍岡を知ろう

YouTube で見る
忍岡高校

忍岡の伝統
ファッションショー

「支える人々」で紹介した、2019年から2021年まで忍岡の文化祭で発表した3年分のファッションショーの映像がこちらで見ることが出来る。撮影、照明、音楽だけでなく演出も凝ったものでこれを生徒だけで制作したという事なので驚く。
2019年の文化祭は観客がいてランウェイを歩くモデル(生徒)さんたちもノリノリで、見ている方も楽しくなる。客席で団扇をパタパタさせているのはご愛嬌。

受験応援
さんだるちゃんねる

「東京都公立学校PTA連合会推薦」のれっきとした都立高校入試のための民間の情報サイト。受験に役立つ最新の情報を発信している。
都立高校への潜入取材を敢行し、「校長先生に聞いてみた」、「授業に潜入してみた」、「在校生に聞いてみた」など一歩踏み込んだ取材で各学校をわかりやすく紹介をしている。
Part1、Part2の他に、短時間だが学校周辺の映像もあり、最近の母校を知りたい人には嬉しいサイト。

東京都制作
都立専門高校紹介

東京都の公式動画チャンネルで、都立専門高校として忍岡高校の生活科学科が紹介されている。
「高校をどのように決めたらいいかわからない」、「普通科以外の都立高校ってどんな学校があるの?」という中学生を対象に、都立の専門高校について紹介することを目的に制作された作品。
とてもクオリティの高い動画で、取材も丁寧に行われている。忍岡の生活科学科の全てがわかると言える。

母校への思いを
お寄せください

100年を超えて活動する鶯溪会は、その会員年齢の幅は広く最大で80年にもなります。女学校の忍岡を卒業した人、都立の普通科を卒業した人、単位制の高校としてもすでに16年を超えています。

その幅広い年代のみなさんが、どんな思いで母校を見ているのか。今、母校に思うこと。そんな気持ちをお寄せください。現役生へのエールとなれば嬉しく思います。また、鶯溪会の活動の参考にさせていただきますので会への要望などもお願ひします。

ハガキ、お手紙、ファクス、メール、なんでも構いません。宛先は、本会報の題字横に記載してあります。よろしくお願ひします。



鶯溪会メールアドレス
oukeikai@ybb.ne.jp

※会室には常駐していませんので電話を受けることができません。ご了承ください。



昭和49年、インターハイ福岡大会に東京都女子団体代表で出場しベスト16の活躍を見せた忍岡高校(団体戦出場は坂田和恵、中島多佳子、佐久間泰江、清水清美、安川富美子、菊田規子の各選手)

忍岡高等学校弓道部 栄光の歴史

藤弓会(弓道部OB会)
会長 市川 徹(56期卒業)

忍岡高校弓道部の歴史は
約70年前に始まった

弓道部の歴史を語るには約70年前に遡らなくてはならない。昭和29年(1954年)頃に高校の事務長をされていた藤澤茂兵衛氏(弓道教士七段)が府立第五高女時代から残っていた矢場で練習されているのを、偶然見ていた生徒達が興味を示し、その後学校の承認も得て弓道部の創設に至った。渡辺重人、竹腰秀臣等が初代弓道部長となった訳である。

昭和30年、東京都の弓道部会で3校目の認証校となるや
快進撃が始まる

昭和30年(1955年)には、都高校体育連盟(高体連)が発足され弓道部会も立ち上り本校は両国高校、八潮高校に次ぐ登録校として認証された。藤澤先生の指導に負う所を理由とするも生徒たちの頑張りもあり、インターハイの前身である全国高等

学校弓道大会・第一回(東京開催)と第二回(山口大会)に東京代表として連続出場した。選手は、井村晃崇、大野良平、渡辺宏治であり二回大会に個人出場した名倉靖は、後に明治大学弓道部の主将として活躍して関東学生選手権等で個人優勝を果たしている。

昭和36年度(1961年)卒業の赤塚昭二は、大学に進み東京都学生弓道連盟リーグ戦で個人優勝等を果たした。卒業生には他にも全日本学生大会優勝者も複数存在する。

公立高校としてインターハイ出場 4回は未だに破られない記録

その後、昭和42年、49年、59年、62年にインターハイ出場を果たすことになる。

弓道部インターハイ出場の軌跡

- 昭和42年(1967年) 富山大会
(男子団体戦出場)
市川徹、市村清、浦辻又義、森岡孝
- 昭和49年(1974年) 福岡大会
(女子団体戦ベスト16)
坂田和恵、中島多佳子、佐久間泰江、清水清美、安川富美子、菊田規子
- 昭和59年(1984年) 静岡大会
(男子個人戦出場) 中島光章
- 昭和62年(1987年) 北海道大会
(女子団体戦出場)
小林千代子、山崎薫、五十嵐亜紀、柳沢有紀子、隅山愛、吉村京子

現在、東京都の弓道登録校は約80校でその内都立高校は3



信頼関係に満ち、部員間の関係も穏やかな練習風景(昭和48年弓道場にて)

0校であるが、公立高校としてインターハイ4回の出場回数は未だに記録である。又関東大会出場や東京都大会での団体優勝や個人優勝は数知れない。

すでに忍岡は周りからも注目される弓道名門校であった。その影響もあり、昭和59年(1984年)には本校16代校長であった大瀧和一先生が高体連弓道部会部長として活躍されることとなる。

昭和64年(1989年)には、学校側の働きかけや先生方の協力もあり新道場建設と落成式も取り行う事ができた。

礼節、憐憫、誠実が 忍岡弓道部の伝統

藤澤先生の指導は、弓道を通しての礼節、憐憫、誠実を重要視され、部員間の関係も穏やかで信頼関係に満ちたものであ

た。藤澤先生没後も伝統としてその精神は代々先輩から後輩に受け継がれていった。昭和41年には早々とOB会(藤弓会と呼称)も発足し現在250名以上の会員が参加し定期的に旧交を温めている。また、後年旧制女学校時代の弓道部OGである宮田昌子(教士八段)、糠田英子(錬士六段)も藤弓会に加入された。昭和64年(1989年)卒業の水野裕子(錬士六段)も称号者として活動している。そして多くの卒業生が各界で活躍している。

弓道部の復活を切に祈る

本校・弓道部は約17年前に、高等学校の統廃合政策の中で、他高校との合併の目的で一時的舎が替わり、最終的には浅草橋の地に戻ったものの校舎内に弓道場が無くなっていった事で現在は廃部となっている。一方、弓道を学んでいる複数の在校生が現在おり、弓道部再創設の可能性に関して学校側と話し合いがなされている。

伝統のある弓道部として弓道の精神に満ちた生徒が育つ部活動が復活される事を祈願するものである。

弓道部OB会

会長 市川 徹(56期)



明治44年3月25日(1911年)日本女子美術学校から東京市立日本女子技芸学校と改称してスタートして110年。美術学校から技芸技芸学校に変わり、さらに女学校、男女共学へ、そんな歴史をでお届けします。(鶯溪会創立百年記念誌の記事を一部抜粋して掲載します)

★女学校時代〈浅草向柳原〉

◆昭和20年(1945年) 終戦そして授業再開

東京大空襲がくり返され、本校も焼夷弾の洗礼を受けたが幸い消し止められ罹災をまぬがれた。

8月15日に終戦、学園に平和が戻り、そして9月1日、授業再開。校内の清掃、整理を終えて、4年生以下366名が机に向い、教科書を手に、新生日本を背負う若人の学園生活が、ここに再び始められた。

◆昭和21年11月(1946年) 困窮の中第1回文化祭を開催

この物質的困窮をこえて生徒の精神的充実をはかったのが、全都にさきがけて行われた文化祭の実施である。第1回文化祭は11月2日から4日まで行われ、各部の成績は審査委員会にかけられ、厳選のすえ文化賞が授与された。

◆昭和22年4月(1947年) 蓬萊中学が併設される

昭和22年1月、6・3・3制に基く新学制の教育内容も文部省において研究され、3月には教育基本法、学校教育法の2法が公布され、新教育の方針、内容も着々と整備されつつあった。4月から新制度による蓬萊中学が本校に併設され、初の入学式が29日に挙行される。

食糧事情はますます逼迫し、7月からは午前中4時間限りの授業で終了し、窮状打開をはかる。

山の家の再開も、参加者は5年生有志30名足らずという状態であった。一方、下田の臨海実習の実施、籠球部の松本合宿など見るべき活動もあった。

11月には前年にひき続き第2回文化祭が行われた。

★新制高校として発足

東京都立忍岡高校の誕生

◆昭和23年4月(1948年) 東京都立忍岡高等学校に校名変更

昭和23年1月、新学制に伴う高等学校設置基準が制定され、本校でも種々の移行措置がとられた。新制高校移行による校名変更について、第一忍岡、浅草

忍岡、忍岡の3案があったが、結局第3案に決定。4月1日、都令第42号によって、「東京都立忍岡高等学校」と正式に校名を変更した。ここに名実共に新制高校として発足した。

◆昭和23年11月(1948年) 鶯溪会主催の音楽祭開催

この時期、11月24日鶯溪会主催の音楽会が都民文化館において開かれたのも時節柄特筆すべきことであるといえよう。

◆昭和24年4月(1949年) 5日制と男女共学に移行

3月に第36回卒業生169名を送り、4月11日の新学期より5日制、男女共学を実施した。特別教育活動をはじめ、本校の教育目標3項目(合理性・自主性・積極性)に、「協調性」の一項を

加える。

11月には3年生の関西方面の修学旅行が久しぶりに実施された。

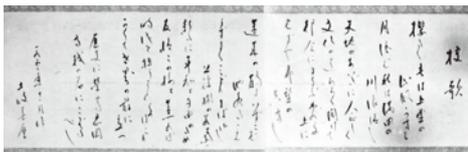
◆昭和25年(1950年) 4月より学区制スタート

1年生の通学地域の分布は、台東区(153)、中央区(48)、荒川区(12)、足立区(27)計240名となっていた。

なお、4月現在の生徒総数は842名、内訳は1年(240)、2年(379)、3年(223)となっている。

◆昭和25年(1950年) 新校歌制定を決定する

従来の校歌は女学校時代のものであり、男女共学の時代にふさわしくないため、新校歌制定を決定し土岐善麿氏に作詞を依頼した。



↑土岐善麿氏作詞による新校歌原本



→作詞をした土岐善麿氏

忍岡という校名の由来

本校の忍岡という校名は、忍岡という地名をもって校名としました。

台東区役所で発行した「下谷・浅草町名由来考」によると、「上野の古名を忍岡と云った。一般にいわれている説である。」として、「忍岡という命名の由来は不詳で有る。しかし、上野というのは、高台で上が野原になっていたので上野と云った。」と述べています。

忍岡というのは六百年の昔から東国の一つの名所であったと思われまふ。上野という地名は、それ以後につけられたものと思われまふ。

(60周年記念誌 千葉孝校長挨拶を編集)



昭和28年2月の新校歌発表会

※前号にて、「浅草向柳原」を「浅草向原」と誤表記してしまいました。訂正します。

シリーズ 8

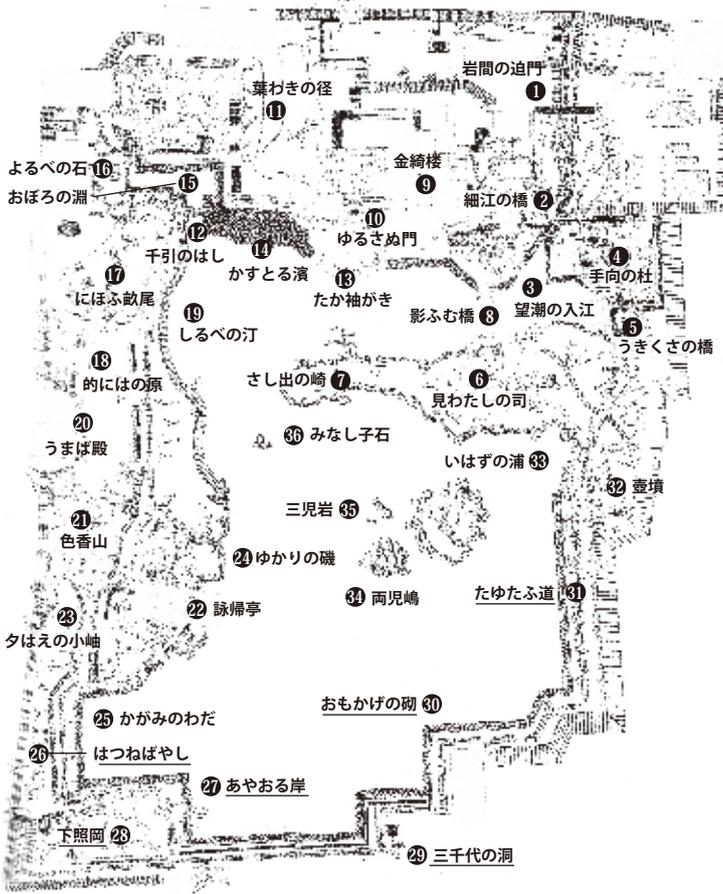
思い遙かに——蓬萊園

南九州大学環境園芸学部環境園芸学科の永松義博氏、杉本和宏氏、吉田健氏による「平戸藩江戸屋敷『蓬萊園』に織り込まれた景色」という研究論文を基に蓬萊園を散歩します。

前回は、「かがみのわだ」まできました。ここから池の南側を東に向かいます。現在の位置としては南校舎を格技棟に向かつていくイメージです。

湾曲した入り江、「かがみのわ

だ」の西には自然に生えそろうた小竹の林があります。②「はつねばやし」と呼ばれ、鶯が毎春飛来し、同所で初鳴きを聞ける様子が雅名となりました。「竹をのみ友と思ひし我宿になれてぞ来鳴く鶯の声（新拾遺和歌



平戸藩江戸屋敷「蓬萊園」に織り込まれた36の景色

- 1 岩間の迫門 2 細江の橋 3 望潮の入江 4 手向の杜 5 うきくさの橋
- 6 見わたしの司 7 さし出の崎 8 影ふむ橋 9 金綺楼 10 ゆるさぬ門
- 11 葉わきの径 12 千引のはし 13 たか袖がき 14 かすとる濱 15 おぼろの淵
- 16 よるべの石 17 にほふ畝尾 18 的にはの原 19 するべの汀 20 うまば殿
- 21 色香山 22 詠帰亭 23 夕はえの小軸 24 ゆかりの磯 25 かがみのわだ
- 26 はつねばやし 27 あやおる岸 28 下照岡 29 三千代の洞 30 おもかげの砌
- 31 たゆたふ道 32 壺墳 33 いはずの浦 34 両児嶋 35 三児岩 36 みなし子石



「あやおる岸」にある船着き場から漕ぎ出す一艘の船。左に見えるのが「詠帰亭」。正面の鬱蒼としている所は「見渡しの司」と思われる。

集)「この側らに銀杏が植栽されていたと記されています。」

②「あやおる岸」は、「かがみのわだ」付近にある階段の側らに柳の

古木が植栽されていました。枝が風になびき、波立った水模様と交わる様を、雅名としました。また、柳の名所・六田(現・奈良県吉野郡)に勝る柳であると記されています。

②「下照岡(したてるおか)」

「あやおる岸」から続き、岡下に桜、つつじ、紅葉の植栽、背景に常緑樹が茂っていて、開花時期になると各植栽の鮮やかさと常緑樹の黒色が、くっきりとした明暗を成して賞嘆されたことが記されています。特に、紅葉の植栽が最も多いため、地面に照り返る色彩の様子が、和歌「日を添ふる富山の峰のつつじ原下照る影は花の色かも(後拾遺集)」の情景とかけられて雅名となりました。

③「三千代の洞(みちよのほら)」

大殿と池を結ぶ通路として使われた洞状の道で、出入口辺りには桃が植栽されていました。橘守部はこの洞を桃源郷に見立て、古歌に桃源郷を「三千代」と詠む事例が多いことから雅名としました。

④「おもかげの砌(おもかげのみぎり)」

「たゆたふ道」から西へ曲がった所にある砌(水際の石や敷瓦を敷いた所)で、月の光が降り注いで地面が輝いて雪が降り積もっているように見え

たりと様々な幻影が見えるため、和歌「ちりはけど積もるは月の光にておもかげ分くる庭の白雪(新続古今和歌集)」の情景と類似していたことから雅名がつけられました。この砌における眺望が良く、特に池泉周辺を中心とした各景を賞嘆するのに最適な場所であったようです。



「おもかげの砌」から「さし出の崎」方向を見ると、「金綺楼」が水上に浮かび上がって見えたと言われている。

⑤「たゆたふ道」

本宅から「金綺楼」に通うための道で、先代からこの道に沿って桜が植栽され続けていて、このため、滋賀にある桜の名所と比較され、開花前から散り始めまで各光景が鑑賞されました。美しさで心が揺れ動く様が、和歌に詠まれた情景に類似することをふまえ、雅名になりました。「天雲のたゆたひ安き心あらば我をな頼めぞ待たば苦しも(万葉集)」

〈58期 金子 寿宏〉
〈62期 鹿田 和子〉

会員だより

2022年3月31日
までを掲載しました



oukeikai@ybb.ne.jp
鶯溪会メールアドレス

お便りありがとうございます。メールでも受け付けています。
「同期の人に懐かしいひとこと」にもご利用ください。
(※カッコ内は旧姓)

31期 瓜谷(大畑) 静子

31期の皆様、いかがお過ごしですか。私は元気で感謝の毎日です。忍岡時代のお友達と連絡がとれたら嬉しいです。

38期 岩丸(津川) 崇

会報をありがとうございます。いつも楽しみにしております。2021年5月に90才になり幸せです。同期の河合敏子様もお元気で、電話で忍のバレエ部の事、蓬萊池の大銀杏の今の見事な枝ぶりなど話しました。私も大銀杏の様に元気に一日一日を大切に心豊かに想う気持ちでおります。運営委員の皆様よろしくお願ひいたします。

39期 有田(若井) 菊枝

100号を味わい深く読ませていただきました。

40期 田中芳子

88才を過ぎましたが元氣です。亡き友の墓参りをしたり、ボランティアで植樹の為の苗畑で作業したり、近くの山で笹刈りや幹巻きをしたり、毎朝公園の落葉はき等、忙しく動いています。

40期 和田(岡部) 正子

七人家族で賑やかに過ごしております。

41期 打矢(浦野) 智枝子

在学中、学校をさぼって歌舞伎を見に行っていました。ごめんなさい。今もお供つき(娘)で行っています。

42期 堀部(石黒) 孝子

唐松も白樺もすっかり葉を落とし小道は落葉でいっぱいです。歩くとカサカサと音がして楽しいです。浅間山がすっきり見える所で、しばし煙の様子を見ます。

38期 神林(佐々木) たか子

今年90才になりました。私達は女学校5年卒業組と更に1年新生高校3年の卒業組に分かれました。同窓会も大分以前に終わりました。皆様ご機嫌如何にお過ごしですか。私も毎年「鶯溪」を楽しみにしております。

42期 加藤威郎

母校とバスケット部のますますの発展を祈念いたします。

43期 山口(藤本) 篤子

実家のある浅草雷門までも、なかなか一人では行けなくなり、現在は忍の友人も話す方は少なくなりました。

43期 名取靖夫

43期同期会は昨年、中村君を見送りました。その他は皆元氣です。

44期 田中(政平) 桂子

級友の訃報を受け、悲しみと共に高校生の頃の笑顔が目に見えます。それぞれすばらしく生きて下さったと思います。

46期 南畝清志

会報をありがとうございます。コロナ以前の世の中になると願っております。

46期 古川(生川) 光子

西(旧姓)さんの訃報、ショックです。3年C組で机を一緒に並べ、青春談義をした仲。放課後は時折ローリースケートを教わりました。脳震盪を起こす程ひっくり返り、青春の痛い思い出!! 思い出は古きにしかずとか…。ご冥福を心からお祈りします。合掌

46期 井村晃崇

在学中は弓道部で全国大会に2回(1年、2年) 国体参加(3年)。楽しかったです。

47期 一瀬(小川) 志磨子

2021年2月コロナで入院しました。流行に乗りました。90才位には軽々生きると思っていました。気が生還いたし介護度1です。家族には大変世話になりました。大感謝です。

49期 大野(清水) 由之

池田悦子さんは同期会の役員を永年つとめられ本当にありがとうございました。私は下関市に嫁いで55年。鶯溪を通じ、折りにふれご連絡いただいて忍岡はいつもすぐ近くに思えました。この間、上野の同期会でお話しましたの・・・。

51期 奥倉(大矢) 八重子

いつも会報をお送り下さりありがとうございます。コロナ禍2年がまもなく終わろうとしています。今後はどうなるのでしょうか。早く穏やかな日々が訪れるよう願ひます。

53期 市川(河西) 彰子

いつもお世話になります。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

54期 等々力(細田) 美津子

鶯溪100号！おめでとうございました。関係者の皆様、ご尽力ありがとうございます。57期はLINE「忍の会」で交友をあたためています。忍生のみなさんもコロナ禍を乗り越えてください。

57期 丹(須賀) 英子

小さな会社ですが、父の後を継ぎ今でも頑張っています。

58期 小林早苗

訃報の欄を見ると、58期の芝崎和子の文字が目にとまりました。急いで卒業アルバムを探したのですが見当たらず確認はできませんでした。ショートカットで目がぐりぐりの可愛らしい方でした。思い出してみれば、あの頃が一番の青春時代だったように思います。(二部抜粋)

59期 小林辰也

理事、監査を始め運営委員の皆様方の日頃のご尽力に深く感謝いたします。

60期 嶋田(高村) 頼子

22回卒の母(友子)が102才で亡くなって早2年。80代まで「今日はおうけいかい」と同期の集まりに行くのが嬉しそうでした。

60期 川村(今野) 景子

早速、会報をお送り下さり、ありがとうございます。60期関谷さんの文章を読み、懐かしさが込み上げ心が温かくなりました。鶯溪会お世話下さり、ありがとうございます。

61期 山分一夫

軟式庭球部は無事存続しているのでしょうか。

61期 濱野満雄

61期 上原富士子

昨年2021年夏に67歳でフルタイムの再就職に成功しました。コロナ禍でも61期の絆はゆるみならず。生き続けて再会しましょう！

62期 丸山(島田) 勢富美

同窓会会報を毎回楽しみにしています。これからもよろしくお願ひします。

64期 富岡新吾

今でも週2回は練馬の極真空手の道場で汗を流しています。おかげで腹も出てなくやや逆三角形を維持しています。

66期 松井潤子

2019年に還暦同窓会の幹事として参加。その後コロナ禍となり、再開した友人たちと対面で会うことができなくても、SNSでつながっていることがうれしい時代になったんだなあ：と思っております。鶯溪会の存続に尽力されている皆様に感謝しております。ありがとうございました。

66期 木綿(田邊) 喜美子

還暦同窓会に諸事情で参加できなかった3人で1年B組プチプチ同窓会を、モッコのお宅にお邪魔して開催。60過ぎてモッコもっちゃんと呼び合える幸せを感じました。グラタン、プリン最高！

66期 坂本信江

幹事の方々、いつも有難うございます。誰にとっても大変な時代

になりました。区内にある生涯学習センターで障害者自立支援の場としてGateを営み20年になりました。

忍岡卒業の大先輩がお客様として来て下さったり中学生ボランティア達が忍岡に入学する報告を受けたりと母校と繋がっています。この状況下の中でも皆さんお元気にお過ごしくださいませ。

68期 額賀(松鹿) 光子

いつも御送付をどうもありがとうございます。また100号、おめでとうございます。現在、夫の転勤に伴い、震災から10年を経た仙台におります。元気にしております。

71期 金澤見映

いつもありがとうございます。これからも楽しみにしています。

78期 山口薫

いつも発送いただき、ありがとうございます。

79期 小長谷幸史

平成15年より新潟市に住んでおります。令和3年3月まで3年半、高等学校で非常勤講師で生物を担当しましたが、忍岡での高校時代や教育実習をよく思い出していました。

バックナンバーはHPで

広報紙「鶯溪」はホームページで閲覧できます。



バックナンバー

卒業生による女性コーラスグループ
ありがとう！千鶯会

せんおうかい
千鶯会は今年、
39年間の活動に
幕を閉じます

千鶯会前代表
米内みさ (45期)



母校創立100周年祝賀会で歌声を披露する千鶯会のメンバー(平成23年10月15日)

1959年10月13日、ヤマハホールに於いて、第一回東京都立忍岡高等学校音楽部発表会が催されました。卒業生、在校生、総勢74名が出演して居ります。

千代子先生の「皆で歌おうか」の一言で千鶯会が生まれる

その後、1983年2月9日、「鶯溪会の集い」が開催され、39期奥村淑子さん、48期窪田隆さん、49期佐藤光政さん、51期仁平幸子さん等、卒業生の皆さんが出席されました。この会の終了後、楽屋につめかけた卒業生達に、「又、皆で歌おうか」との田中千代子先生(音楽の先生)の一言が千鶯会誕生のきっかけになったのです。

4月3日、呼びかけに応えて29名が出席しての初顔合わせ、ここで千代子先生の「千」と鶯溪会の「鶯」とを合わせて「千鶯会」と命名することが決まりました。千羽の鶯が声を合わせるようにとの願いも込めて。記念すべき第一回の練習は、千代子先生を中心に懐かしい歌を歌う事から始まりました。

練習2回目、7月17日には、

翌年の千代子先生の65歳の誕生日をお祝いして、山葉ホールで千鶯会として第一回演奏会を開くことが決まりました。練習は月1回、場所は母校音楽室、指揮は佐藤光政、仁平幸子、ピアノは53期北澤夕起子の方々にお願いする事になりました。

盛り上がった第一回演奏会、台東区合唱連盟に加盟する

10月には鶯溪会総会に出演、9月、10月、11月と練習を重ね、いよいよ1984年2月19日千代子先生のお誕生日をお祝いして千鶯会第一回演奏会を開きました。コーラスの出演者は41名、プロの方やその家族の方々の演奏も交えて和やかに楽しく盛り上がりました。

その後、活動方針を話し合い、毎年東京文化会館で開かれる台東区合唱祭に出演する事とし、4月から10月まで月一回の練習を重ね、合唱祭当日を迎えました。曲目は「水の上」「花すみれ」「ねむの花」「わすれなぐさ」でした。こうして台東区合唱連盟に迎え入れられました。

〈次回につづく〉

鶯溪会の理事 14 名を紹介、吹き出しは編集者によります。

スタッフボイス 14



10年、20年先の鶯溪会を見据えて着々と布石を

63期 佐々木 弘 (会長)

2013年の同期会を機に鶯溪会と関わり、会長という大役

をさせて頂いています。PTA や蓬萊会と連携を取り、母校や同窓生にとってより良い同窓会になる様精進いたします。



鶯溪会歴50年、だから裏も表もフツフツ

55期 西澤俊子 (副会長)

2013年から理事、総務担当。この間、理事一丸となり、①名簿データベース化 ②会報発送作業の外部委託 ③会計ソフト導入 ④諸インフラの整備が実行できたことは感慨深い。副会長として会長を補佐していきたい。

長い間総務と広報を一身に背負い大活躍



企画と取材が大好きな鶯溪会の知恵袋

55期 要 幸雄 (企画)

忍が上野忍の家政科を取り込み、単位制高校に再編成されて17年目。校名と同窓会は残ったが、以前の忍との断絶感は否めない。伝統をどうつないでいくかを考えています。



あの頃の学校と同窓会の流れをよく知る事情通

62期 須賀和男 (運営委員会)

旧校最後の4年間、後援会(PTA)の理事長で、山の家を始め後援会の財産等の整理をやりました。鶯溪会では「運営委員会」の責任者ですが、2年間開店休業状態です。今年後半にはぜひとも会を開きたいです。



鶯溪会の財務に警鐘を鳴らし、財政再建へと動いた立役者

57期 松本真理子 (会計)

13年前会報発送に参加し、そのまま誘われて理事になりました。会計担当です。埼玉県北部の本庄市から上京してきました。地元では学習塾の仕事と、保護司の活動をしています。

気配りて会の円滑な運営を支えるベテラン



57期 田中 修 (副会長)

理事歴は約10年で、現在は新たな運営委員会(旧評議員会)の発足、運営が目標です。また鶯溪会の「存続・継承」のため若手理事の発掘と育成に注力しています。



今年から理事として活動を開始しました

64期 小川雅江 (総務)

以前、「同期会をやりたい」となった時に同期の名簿がなかったことから、鶯溪会に助けられ評議員をやることになりました。それから数十年、理事の方々の献身的な活動を見てきました。少しでもお役に立てればと考えております。



鶯溪会にデータ管理という文明をもたらした張本人

62期 鹿田和子 (データ管理)

同期の須賀理事の紹介で、鶯溪会名簿のデータ管理を担当しています。入金、住所変更のデータ入力など林理事とやっています。氏のふりがなの入力も2/3が終わり、便利に検索できることを目指します。

昨年より理事として参加した経理の専門家

70期 浦野由美 (会計)

評議員、百周年記念式典のお手伝いが縁で、会計担当として参加しています。何事にも丁寧になれる先輩方をお手本に頑張りたいと思います。大雑把な性格なので…(笑)



この落ち着いた佇まいですが会ではなんと最年少!



70期 齋藤晋一 (web担当)

鶯溪会にはコロナ過の中、昨年より参加させていただいております。やっと理事の顔と名前が一致してきました。微力ながら会の発展のためにお力になればと思います。よろしくお願いします。

卒業式の日を間違えて、その日家づくろいしていた(汗)

58期 金子寿宏 (広報)

鶯溪会100周年記念誌編集に参加して、その後誘われてこちらに居すわっています。主に会報の編集をやっています。精鋭ぞろいの働き者のメンバーの中で、大ボケしながら楽しく活動させてもらっています。



割り勘の計算が瞬速!しがも注文も手早い!



63期 兵藤邦子 (会計)

鶯溪会100周年記念祝賀会に携わった縁で、理事になってしまいました。主に総務を担当しています。理事会の後の懇親会(有志によるお喋り会?)を楽しみにしています。

1.にゴルフ 2.に鶯溪会 3.に人の世話かな

64期 林 由紀子 (データ管理)

100周年祝賀会のお手伝いをきっかけに理事として参加しています。担当は名簿と入金データをPCに入力しています。興味のある方、鶯溪会存続のために一緒に活動しませんか。



たくさんのご送金
 ありがとうございます。
 ついに黒字化達成！

おかげさまで、10年以上赤字が続いていた財務に明かりが灯りました。会でもできる限りの経費削減を行っていますが、それもすでにいつぱいのところになっていました。

何よりも大きな経費が会報発送費用ということなので、心苦しいのですが前年より秋号の発送を減らしたことによりいくらかの経費が抑えられ、さらに会の窮状を訴えた所、会費納入が大きく増加しおかげさまで赤字を克服することができました。ありがとうございます。引き続きお願い申し上げます。

今、気になるのが送金いただく年代に偏りがあることです。圧倒的に高年齢の代が多く、70期以降の若年層が少ないのが現実です。この問題をどのように解決していくか、今後の大きなテーマとなっています。

10、20年先の活動を円滑にするために若年層の同窓会への参加が必要不可欠です。ぜひ、鶯溪会の活動をご理解いただき、盛り上げていただけるようお願い申し上げます。

会費・協力金をご送金いただいた会員氏名

■終身会費 <30,000円>

(2021.9.1 ~ 2022.3.31) ※4/1以降の納付については次回掲載

期	氏名	期	氏名	期	氏名
45期	圓城寺清美	60期	嶋田頼子	66期	松本宏子
47期	高口 操	61期	上原富士子	67期	土屋ゆかり
49期	藤平和代	63期	林 宏明	78期	山口 薫
50期	成子康子	63期	師岡 宏	79期	小長谷幸史
58期	塩野崎淳子	63期	血脇雅壽		
59期	山崎鈴江	66期	松井潤子		

■入会費 <3,000円>

(2021.9.1 ~ 2022.3.31) ※4/1以降の納付については次回掲載

期	氏名	期	氏名	期	氏名
110期	原田あゆ美	110期	今井鈴袈	110期	畠山昂雅
110期	堤 心月	110期	下坂ひかる	110期	三枝紫音
110期	内堀哲志	110期	中野こゆみ	110期	大平 雅
110期	上田怜奈	110期	宮岸慶伍		
110期	加藤一心	110期	坪井聖波		
110期	木立花鈴	110期	大西亜実		

<敬称略>

■年会費 <2,000円> (2021.9.1 ~ 2022.3.31) ※4/1以降の納付については次回掲載

期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名
30期	関根美智子	42期	堀部孝子	49期	笹野峰子	54期	大島康行	57期	大石達子
32期	森下純江	42期	加藤威郎	49期	須賀牧子	54期	北村喜代子	58期	齊藤臣司
32期	吉岡真玉	42期	石井京子	49期	阿部雅行	54期	等々力美津子	58期	榎本恵一
35期	国枝安江	42期	田中泰慶	49期	大貫洋子	54期	見村絹江	58期	小林早苗
35期	木村登喜子	42期	花岡千代子	49期	真壁正和	55期	山縣 正	58期	横山葉子
35期	岡みさを	42期	楠本雅巳	49期	武田かね子	55期	四ノ宮清子	58期	伊田由美
35期	名倉幸子	43期	山口篤子	49期	後藤菊子	55期	水上照雄	58期	宮田 茂
36期	木之村富美子	43期	井手トキ子	50期	高田榮子	55期	戸高一成	59期	小林辰也
36期	斎藤喜久子	43期	金城行八	50期	川村 誠	55期	萩原富美子	59期	渡 章
37期	櫻井良子	43期	名取靖夫	50期	本山正躬	55期	風間良子	59期	奥平國晴
38期	岩丸 栄	44期	榎本晃子	50期	大富佐智子	55期	辰馬信男	60期	伊藤良子
39期	新藤尚子	44期	勝村節子	50期	松川澄子	55期	川口二三枝	60期	関谷静子
39期	武居 壽	44期	田中桂子	51期	奥倉八重子	55期	宮川明久	60期	川村景子
39期	村瀬君江	44期	加納久子	51期	武田重子	56期	山分一夫	61期	飯島孝夫
39期	高垣周子	44期	小川たか	51期	金澤美幸	56期	佐藤猛能	61期	土肥英利
40期	小笠原光子	45期	桜井旭代	51期	田尻敬子	56期	須藤とし子	61期	濱野満雄
40期	氏川和江	46期	浦田幸子	52期	高橋美奈子	56期	倉持正実	61期	山口光雄
40期	和田正子	46期	古川光子	52期	押樋良樹	56期	飯尾 進	61期	押尾 俊司
40期	吉良節子	46期	仲里榮子	52期	河野孝子	56期	五十嵐友子	62期	山本勝弘
40期	樋口加洲子	46期	井村晃崇	52期	指田孝子	57期	田中 修	62期	笹川文夫
40期	海老原喜代子	47期	吉田 昭	53期	市川彰子	57期	久木留廣明	62期	菊地輝光
40期	森 美代子	48期	水野正行	53期	蓬田まち子	57期	鈴木雅博	62期	丸山勢富美
40期	佐藤亮介	48期	岩丸美恵子	53期	中澤建樹	57期	渡邊幹夫	63期	藤林邦夫
41期	大沢勝子	48期	山下美實	54期	富塚節子	57期	皆川みどり	63期	太田剛子
41期	菊地芳枝	48期	伊佐日出子	54期	広瀬 章	57期	丹 英子	63期	矢内まゆみ
41期	打矢智枝子	48期	栗原美美子	54期	等々力美津子	57期	星野千賀恵	63期	小倉 均
42期	石原政子	49期	小島敏江	54期	浅田祥子	57期	小川武夫	63期	小岩井清隆

<敬称略>

■協力金 <1口/1,000円> (2021.9.1 ~ 2022.3.31) ※4/1以降の納付については次回掲載

期	氏名	口数	期	氏名	口数	期	氏名	口数	期	氏名	口数
30期	久保照子	10	42期	石塚和子	10	48期	山下美實	2	55期	山縣 正	3
30期	三鈴会	16	42期	田中泰慶	1	48期	柿澤公子	2	55期	辰馬信男	5
30期	中井照子	5	42期	花岡千代子	3	48期	濱島洋子	20	55期	宮川明久	5
31期	瓜谷静子	3	42期	佐藤弥生	2	49期	岡田伸江	5	56期	石川千恵	2
35期	名倉幸子	3	43期	高津静子	3	49期	松田靖子	10	56期	飯島孝夫	3
37期	櫻井良子	1	43期	富島保子	10	49期	阿部雅行	2	56期	佐藤猛能	2
38期	河合敏子	3	43期	名取靖夫	1	49期	大野由之	2	56期	関 眞弓	1
38期	岩丸 栄	10	44期	榎本晃子	2	49期	真壁正和	2	57期	鈴木雅博	3
38期	神林たか子	2	44期	片桐久子	10	50期	大富佐智子	10	57期	小林みどり	3
39期	有田菊枝	3	44期	川越亮子	10	50期	松川澄子	1	57期	吉野泰子	3
39期	武居 壽	10	44期	足立兼子	10	51期	金澤美幸	1	57期	丹 英子	1
39期	高垣周子	10	45期	前野孝子	5	51期	田尻敬子	2	57期	松本真理子	2
40期	田中芳子	2	46期	南畝清志	3	51期	戸倉光子	10	58期	宮本弘明	1
40期	佐藤亮介	3	46期	古川光子	8	52期	佐藤正宣	5	58期	榎本恵一	1
41期	松丸富江	5	46期	井村晃崇	3	52期	長谷川千恵子	3	58期	金子壽宏	3
42期	石原政子	3	47期	一瀬志磨子	10	53期	市川彰子	1	58期	吉田保子	20
42期	加藤威郎	2	47期	木村禮子	10	54期	大島康行	6	58期	岡村裕之	1
42期	石井京子	2	48期	水野正行	2	54期	見村絹江	3	59期	上倉加代子	2

<敬称略>

鶯溪会百周年 記念誌&CD 販売

■各年代の代表から当時の思い出を取材し、まとめた大作。こんなこともあったんだと、知られざる忍岡高校百年の歴史が綴られていて、社会情勢もわかる貴重な一冊。六義園、後楽園に並ぶ名庭園といわれた蓬萊園についても記述があり、歴史と伝統が織りなす忍岡高校の原点がよく解ります。

■校歌CDは、今年解散した同窓生の女性コーラスグループ千鶯会のメンバーがこのCDのために録音した完全オリジナル版。現在の校歌の他に女学校時代のたおやかな校歌も入っていて貴重です。

◆鶯溪会百周年記念誌

1冊2,000円(送料)

◆校歌CD

1枚1,000円(送料)



追悼 〈55期 山縣正君〉

またひとり同級生が世を去りぬ

都寿司店主山縣正

先代の父親の跡を継ぎ、日本橋蛸殻町の都寿司を営んできた山縣正君が、今年3月5日すい臓がんで亡くなった。多くの寿司職人を育て、全国すし連の会長でもあった彼は、全力で日本のすし業界を引っ張ってきた。

山縣君藍綬褒章

最晩年の旭日小綬章

誇りなりけり

「江戸時代の寿司屋は屋台の店だったんだよ」と話しながら握ってくれた寿司のおいしかったこと！生涯職人として徹してきた彼は私達の誇りだ。母校テニス部の後輩を指導し、鶯溪会に対して長年協力を寄せてくれたことを深く感謝している。

五代目を育てあげ、都寿司は、山縣君の味を脈々と継いでいくことは間違いないと思う。また、同級生・後輩を誘って食べにいくからね。ご冥福をお祈りする。

〈55期理事 西澤俊子〉

「鶯溪101号」は卒業生 すべての皆様に発送しました

前号の「鶯溪100号」は会費・協力金納入等の方限定の発送といたしました。今後、春にお届けする号は卒業生全員に送付しますが、秋に発行する号は不本意ではありますが、

訃報 〈謹んでご冥福をお祈りいたします〉 2021年9月1日～2022年3月31日まで受理分

期	氏名	旧姓	ご逝去年月日
28・4	氏木 敏子	坂水	2021.10.11
30・1	古田 悦子		2021.5.4
30・	藤倉 トシ子	多田	2020.11.29
35・	田口 方子		2021.11.6
35・	糠田 英子	岩澤	2021.2.9
36・	山口 倭子	平賀	2021.10
37・	吉田 純子	加藤	2014.3.25
43・A	中村 欣司	相良	2021.12.12
45・F	森山 梢	青木	2021.5.28
46・D	佐々木 靖子	関	2019.6

期	氏名	旧姓	ご逝去年月日
55・F	山縣 正		2022.3.5
59・A	高橋 照子	霜崎	2022.1.27
61・E	大関 敏男		2022.3
61・G	鈴木 勝也		2021.12.14
64・F	横山 順也		2022.3.28
65・F	伊沢 卓子	伊野	2021.9.30
67・F	渡辺 治哉		2021.5.4

前号で、「51期 下田 功様」を誤って掲載してしまいました。申し訳ありません。心よりお詫び申し上げます。

編集後記

今回、ファッションショーの動画を見て改めて映像の持つ訴求力の高さに気付かされた。圧倒する情報量で、まさに「百聞は一見にしかず」状態。音と映像で説得力が格段にアップしている。今までは専門家しか手が出なかった撮影、音声、編集といった作業を一般の人ができてしまう現代、伝達の手段として広がっているもうなずける。

一方、文字や会話によるコミュニケーションも味わい深いものがある。話が面白い人はやはり人気者だし、メールのやりとりがとても楽しい人がいる。こちらも大切にしていきたい。

鶯溪会もみなさんとの交流手段として年2回の会報、そしてホームページがありますが、まだまだ思うような運営ができていないのが現状です。何を、誰に、どのように伝えていくか、役立つ情報をもつともっと発信していきたい。そんな思いでやっています。

〈58期広報部 金子寿宏〉